

平成 31 年度医学部看護学科入学者選抜

【特別選抜（推薦入学）】

小論文（出題意図）

<医学部看護学科>

【出題意図】

問題 1

課題文では、大きなひらめきは小さなひらめきの積み重ねであり、それらは「当たり前」をいったん捨てて小さな疑問を繰り返すことが必要であるとし、その成功例としてロゼッタ・ストーンの解読や iPhone を挙げている。「当たり前」をいったん捨てるとは、思い込みという知覚パターンをいったん捨てることであり、それらに「なぜ？」と問い合わせ、信じてきた前提や思い込みは間違っているのではないかと考えることで、新しい考えを獲得する可能性が生み出される、と著者は述べている。

問 1：上記のような著者の説明についての文脈の読み解き能力と、それを限られた文字数で適切にまとめる文章表現能力を問う。

問 2：自分の身近な状況における「当たり前」に疑問を投げかけることのできる批判的思考力と、自己の考えを具体的・論理的に記述する論理構成能力、および文章表現能力を問う。

問題 2

図 1 は年代別の受傷機転を示したもので、10～20 歳代は交通外傷が、30～50 歳代は刺創・切創が、60 歳代は墜落・転落が、70 歳以上は転倒が多いというように、年代によって異なる傾向が示されている。

図 2 は高齢者の転倒場所を年代別に示したもので、60～70 歳代は庭での転倒が最も多く、次いで 60 歳代は玄関、階段と続くが 70 歳代はリビング、玄関と続くことや、80 歳代で最も多いのはリビングであるが、廊下、寝室、浴室での転倒が他の年代より多く、逆に階段での転倒は少ないことが示されている。

図 3 は性別を問わず年齢を重ねるについて、最も筋肉量の減少が大きいのは下肢であることが示されている。

問 1：これらの数量データを読み取る読み解き能力、および読み解した内容を限られた文字数でまとめる文章表現能力を問う。

問2：高齢者の転倒の現状および筋肉量の推移を示す図表データから、対策に結びつく背景を推論する社会的関心や問題意識、またそれをもとに高齢者の転倒の課題と対策について論じる力、およびそれを限られた文字数でまとめる文章表現能力を問う。